

研究所への期待

しばらく離れていた東京にもどってきて、気にかゝっていた牛久の植調研究所を過日訪問し、予想以上に立派な研究所と研究員等の皆さんの熱心な活動を拝見し、感概無量であった。というのは、協会設立に際して小倉技術会議会長に研究所をつくるという確約をして設立の賛成を得たことが念頭から離れなかったからである。今日にいたるまでの協会の関係者のお骨折りに、あらためて感謝する次第である。資源に乏しいわが国が、今後この方面の研究でも国際的な科学技術の水準を維持、発展させることが重要であることは多言を要しない。ひるがえって眺めると、わが国の農業関係の国立試験研究機関が中央・地方一体となって、能率的に運営されていることは、世界に類をみない優れた点であると思っている。この点、民間の研究機関相互では、そうとはいかない事情が多い。植調研究所が、このような民間研究機関等とのきずなとなって、協力的および共同的に研究が活発に行われると同時に、官側の研究機関とのかすがいともなって、官民一体となって剤と技術の開発と利用が推進されることを期待するものである。地の利を得て、筑波研究学園都市内の研究機関との情報の交換、研究の連絡、研究者の相互協力も活発化するのも当然である。

このような期待で、研究所の陣容・施設等の充実、研究内容の質的向上がはかられ、さらに国内外の研究者・研修者の受入れおよび研究者の海外派遣等の活動も強化され、活気のある研究所として発展することを念願し、関係各位のご賛同とご協力をお願いする。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 馬場 赳〕

目次 (第13巻第2号)

東北地域におけるそば作の概況と雑草防除(予報)	2
＜東北農業試験場 工藤純・加藤明治＞	
ま え が き	2
1. 東北地方におけるそば作の概況	4
2. そば作における雑草の発生消長ならびに雑草害の実態	4
3. そば作の雑草防除における除草剤の利用	7
機械移植稲の育苗法の展望	9
＜農事試験場作業技術部 鷲尾 養＞	
1. 水稻機械移植の概況	9
2. 育苗法の推移と多様化	10
3. 健苗育成と育苗の安定性	12
4. 育苗上の今後の課題	13
外国文献抄録	14
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会 研究所長 中山治彦＞	
• バレイショ専用のサイトカイン	14
• 除草剤と耕起作業	14
• 除雄剤の開発	15
植調協会だより	15

表紙の写真は、ナガエコナスビの種実表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの；網目突起型×3800 [写真提供者 笠原安夫氏]